

# 共同作業による絵画制作の実践1 —熊本市旧産業文化会館壁画・附属病院壁画—

松 永 拓 己

Practice of the pictures work by bilateral work 1  
—The mural painting of the closed Kumamoto industrial cultural center  
・ The mural painting of the Kumamoto University hospital—

Takumi MATSUNAGA

## I はじめに

2009年（平成21年）4月、松永は熊本市より絵画制作の依頼を受ける。

依頼内容は2009年4月より閉館になった熊本市辛島町にある熊本市産業文化会館の1階外周に都市の中心市街地として景観を潤すものを描き、賑わいと情報発信をして欲しいとのことであった。熊本市側と案を話し合い、外周距離およそ100m弱（東、南、西側の三面）、高さ3.5mの巨大壁面に短期間で絵を描くこととなった。5月から8月にかけての8日間、参加学生30名、延べ156名により実施した。

また、2010年（平成22年）1月、松永は熊本大学附属病院医師より絵画制作の依頼を受ける。

依頼内容は4月に改築が完了する附属病院周産母子センター内の壁面をホスピタルアートで満たして欲しいとのことであった。主旨に基き、およそ縦1.6m、横13mの壁面部分を3月までの夜間の制作で、5日間にわたり11名の学生と壁画制作を行った。

本稿では絵画の専門性を活かした2つの壁画制作の実践活動を記し検証し意義を探るものである。

## II 壁画制作考

### II-1 公共芸術としての壁画について

ディアス独裁政権下<sup>1)</sup>（政権期間1877-1911）のメキシコの閉鎖的半植民地的経済社会構造は民衆による革命を引き起こすことになる。革命期後のオブレゴン政権下（政権期間1920-1924）、文部大臣にバスコンセロス<sup>2)</sup>を任命、教育文化に大きな影響を果たす。バスコンセロス大臣は公共の建物の壁面を美術家に提供し自由な壁画を描かせる。それは、やがて美術史に残るメキシコの美術運動<sup>2)</sup>（el movimiento Muralismo）へと繋がった。その壁画制作を手掛けたシケイロス<sup>3)</sup>やリベラ<sup>4)</sup>、オロスコ<sup>5)</sup>らは壁面にメ

キシコ文化のアイデンティティーを象徴する絵画を次々に描き、郷土のインディオの美的伝統を市民に視覚的に提供する。ルネサンス以後の絵画がタブロー<sup>6)</sup>主流であったが、このメキシコの壁画群は壁画に存する意義を存分に発揮したといえる。

タブローは、切り取られた画面空間の中の表現である。それはアトリエ等で個別に制作し、美術館等での各個人の鑑賞時に視覚体験を齎してくれるものである。一方、壁画は壁面に直接描かれ不動である。また、公共の場にある壁画は時間に関係なく大衆に分け隔て無く画面を提供する公共芸術（パブリックアート）としての存在意義をなす。

無論、壁画はメキシコの美術運動が原初ではない。その歴史は古く、フランスのラスコー洞窟壁画等、人類の足跡とともに存在し続け、日本においても6世紀初頭の山鹿チブサン古墳の装飾画や、高松塚古墳の壁画等、数多く描かれている。

時代を経ながらフレスコ、モザイク、テンペラ、油彩と繋がる絵画技術の進歩は、上質な絵画作品を板に描くことを可能とし、絵画は移動可能となり堅牢な基底材としての壁の保護下から離れることとなった。そしてタブローが主流をなすこととなる。

その後も壁画は宮廷等の天井・壁装飾として、または単なる壁紙として壁模様のような内容をも含むものとしても存在しているが、20世紀初頭のメキシコの壁画運動で、再び強いメッセージ性を備えた感動を齎す公共芸術として注目されることとなる。

公共芸術としての壁画は、社会へのメッセージを発信することになる。そして公共芸術としての使命を果たすには、日常空間の中で不特定多数の人々が不定期に鑑賞することを念頭に、その設置場所の持つ意義と周辺環境への配慮が必要である。そこにどのような視覚的メッセージが存在すれば周辺環境に対しどのような変化を生じさせるのか、社会的影響を考えた力強いメッセージをどう工夫するか、制作

者の力量が問われる。

また、公共芸術としての壁画は公共スペースにおいての制作を要求される。現場で直接に制作を行うことは制作過程を公開することになる。この制作過程は普段はアトリエで行うものであるが、壁画は必然的に制作ライブを行うことになり、美術館で完成作品のみを見せることとは趣を異にする。原画や構想の準備があるといえ、制作は思索や躓き、肉体的精神的疲労や孤独な自己との戦いをも強いるものであり、その苦悩する姿も曝け出すことが求められる。その覚悟も含んでの制作であり、制限された時間と限られた画材量の中で、高い芸術性へ向けての試行錯誤への挑戦となる。

## Ⅱ—2 共同制作の方法について

広大な壁面を描く場合、制作時間の問題が生じる。時間的制約の中、高い完成度を求めるには組織された制作の集団が必要となる。集団は個の集まりであり、描き方や考え方、身体的・技術的能力の差、社会的背景の違いがあり、全体をまとめることが要求される。明確な目的と役割を決め、集団を導き、良質なものを求める組織として活動できうる環境形成は大切なことである。

横手・内田は共同制作の問題と課題として以下の9項目の留意点を挙げている。<sup>7)</sup>

1. 目的意識を共有する。
2. 成員の興味・関心を共有する。
3. やりがいと達成感の自覚
4. 制作態度の形成
5. 異見の集約係
6. 適切な目標値の設定
7. 表現方法の開発と技能
8. 材料・用具の準備
9. 制作支援

これらは共同制作における必要不可欠なものであり、共有すべき概念を含むと思われる。

絵は何か描けばいいという完了の形はここでは不十分である。始まりは自己の満足を齎すものからであっても、他者へ見せることを前提に描く場合、さらにもう一步進めたものを期待される。芸術は残酷でもあり、一見で甲乙の判断を誰にでもなさしめるものでもある。心を動かすものをそこに託し、自らも、鑑賞者へもある種の感動をなすものを求められる。絵画技法は低俗な水準から上質な水準まで存する。専門家としてその技術力の違いを知覚することは、依頼主や社会の期待に答え、あるいは期待以上に完成作品の水準を上げ、良好な結果を齎すための

鍵となり大切なことである。

共同制作は集団全体の技術力と団結力によって質が左右され、その作品が強い感銘を齎すものとなるよう集団の中で各々努力する。制作者のよりよく描こうとする姿勢は良質なものを齎すことに繋がる。

日頃から訓練され、デッサン力や着彩力、幾多の絵画作品に触れ技能・感覚を成長させている専門性を備えた成員による制作集団は壁画制作に高い水準の完成度を齎すこととなることは言うまでもない。さらに集団を導きながら、制作を通して指導し高め、可能な限り円滑に成長させることは、作品および制作者全体のさらなる質の向上に繋がる。しかしながら個の集団である共同制作は、制作人数が増えれば増えるほど有効な組織立てへの配慮が要求される。全体が気持ちよく自己の最大の能力を発揮し、団結して制作を行うことができる環境形成は成功の要諦である。

また、さらに良好な制作集団を求めるには、成員個々の自主的な活動と、主体性を阻害せず本人の最大の能力を引き出すことができる有効・的確な助言を差し込む中心人物の能力を期待する。その能力の如何により全体の質は異なってくるであろう。指導的専門的立場から相手の目線に合わせ、的確に分かりよく話をすることは必ずしも容易ではなく、集団個々の人物像を把握し適切に補完し、達成感の喜びを齎すことに参与する心持をも肝要と考える。全体の成長は指導者の喜びである。

最後に、完成を見るまでは全員が手探りで不安を抱えた状態である。どのようになるのか、どのような作品評価が齎されるのか、美術を行う者にとっては心身的疲労を伴い絶えず付き纏う雑念である。共同制作において、どのような事態にも冷静に当たり、中心にあり、全責任を負う覚悟と態度での的確な助言と安心をあたえる存在があることは成員たちの制作に力を呈する。

## Ⅲ 熊本市旧産業文化会館外周壁画について

### Ⅲ—1 制作の背景

平成21年3月末に閉館された熊本市産業文化会館は使用されることなく寂しい雰囲気醸成していた。シャッターは閉ざされ、明かりは消え、所々、板で塀が築かれ、熊本の中心街の通行の要所でありながら殺風景であった。4月に熊本市経済振興局商工振興部産業政策課より本建物に絵を描く旨の依頼があり、5月末までに制作実施を願われた。熊本大学と熊本市は平成19年4月に包括的連携協定を結び協力関係にある。ボランティア制作により熊本市の要望

に答え、壁画制作を行うこととなった。

壁画は巨大な面積であり、短期間での完成目標のため大人数での制作を考え、日程調整の結果、休日を制作日とし、熊本大学教育学部美術科の多数の学生を募ることとした。

### Ⅲ—2 制作の概要

熊本市産業文化会館は壁面に大ガラスが多数使われており、かなりの面積を占める。他、金属製のシャッター部分、一部閉鎖のための板壁面により覆われている。絵の基底材としては3種類の材質からなり、制作技法を熟考し、耐久性と美観の面からシャッター・板部分は外側から油性絵具での着彩、大ガラス部分は内側から水性アクリル絵具での着彩が有効と考え、油性、水性の2種類の画材の選定と、シャッター・板部分は外からの上乗せによる画法、大ガラス部分は内からの下乗せによる画法いわゆるガラス絵の技法を採用することとした。

#### 1) ガラス絵について

ガラス絵の歴史は古く、17世紀ルーマニアのトランシルバニア地方でガラス聖像画として記録が残る。<sup>8)</sup>また北モルドヴァ地方にも18世紀にガラス絵製造が見られ、20世紀に入り、リトグラフ版画の商業化の中で衰退するが伝統文化としての足跡を残す。日本においては大正期に画家、小出楯重<sup>9)</sup>がガラス絵研究を行う。民間工芸品としていきづくガラス絵を絵画芸術の領域に挙げ、ガラス絵による絵画作品を手掛けている。

ガラス絵はガラスへ描くものであります。しかしながら、ガラスの上へただ描くだけならば、板の上や紙の上へ描くのと同様変りのある訳ではありませんが、ガラス絵の特色は、ガラスの上へ描くのではあるがその絵の効果、即ち答えは、ガラスの裏面へ現われて行くのであります。即ち裏から描いて表へ表すという技法であります。<sup>10)</sup>

ガラス絵は透明なガラスの裏から描き、ガラス越しに表から見るもので透明層を通した微妙な光の屈折で油彩や水彩とは異なる独特の風合をもつ。

小出楯重は描写法として、油彩によるガラス絵技法を紹介している。画面への定着力を考慮すると固着力の強い油彩は選択材として妥当である。今回の制作は、固着力の面からと制作時間の面から判断して、建物の内側（屋内面）に絵具層があり、風雨の影響を直接被らず耐久性に問題がないことと、扱い易さを考慮し、アクリル水彩絵具による着彩とした。

描写方法は普段の絵画授業での制作と異なり、まず細部描写、ハイライト描写、次にその周辺部、最後に絵具層の最下層部を描く、通常の描写とは逆の手順による描写法での制作となる。

#### 2) 油性絵具による外壁着彩について

金属製シャッター・板部分は建物の外側（屋外面）への描写となる。風雨の影響や触壁の影響、粉塵等による汚濁等外部からの影響等の問題が考えられる。考慮した結果、より堅牢で表面洗浄にも耐えうる油性絵具による着彩を行うこととした。油性絵具は強靱ではあるがシンナー等の使用が不可欠であり溶解濃度への配慮や臭気、乾燥、洗浄への負荷が増大する。乾燥時間も長く時間制限下での制作計画に慎重をきたす。また、屋外公共スペースでの作業であり、一般通行者への絵具飛散による汚れ、匂いへの注意もより喚起される。また、金属製シャッターは連続した凹凸があり、筆運の問題、絵具溜りの問題、遠近法的視覚錯視への配慮等、描写への過重負荷があり困難が予想される。

描写方法としては、大学の絵画授業の油彩画の描き方と同様、絵具層の下層より順次、絵具を上乗せしていき、最後に細部やハイライト部分を描く通常の描写法での制作である。

#### 3) 壁画内容について

メキシコ壁画運動においてシケイロス、リベラ、オロスコ達は民族のアイデンティティーを象徴する壁画を描き、民衆に視覚的メッセージをなした。壁画が公共芸術であり、その役割を果たすために公に広く伝える主題は重要である。抽象的模様でも、個人的芸術作品でも、壁画としての展開は様々にあるが、今回の依頼の中に「熊本を発信する」ことが出来ないかということがあり、熊本のアイデンティティーを喚起する、都市の中心部に相応しい主題とそれを発信する分りよい画風を旨とし、絵画のデザイン、彩色法に基く平明な表現で、明瞭な魅力を備えた具象的画風の制作を行うこととした。

主題：「肥後六花と熊本の風物」

##### 西側壁面部

##### 「肥後六花と熊本市風物」ガラス絵・壁画

西側作品群には肥後六花の菖蒲・朝顔・芍薬・菊・山茶花・椿とともに、宮本武蔵や加藤清正、夏目漱石ら熊本にゆかりのある人物や、季節の移り変わりや熊本城（南景）、阿蘇遠望、町並等風景・風物を描いている。市花の椿の模様の和服を着て踊る女性の周囲には市樹の銀杏と、市鳥の四十雀が飛び回る。

### 東側壁面部

#### 「肥後六花と熊本県風物」ガラス絵・壁画

東側作品群には、肥後六花の菖蒲・朝顔・芍薬・菊・山茶花・椿とともに、熊本県内の通潤橋や菊池城、阿蘇草千里等の各名所、山鹿灯籠祭りや牛深ハイヤ祭り等の祭り、球磨川下り、清和文楽等各地風物を配し、熊本城本丸御殿（東景）を描いている。市花の椿の模様の和服を着て踊る女性の周囲には市樹の銀杏と、市鳥の四十雀が飛び回る。

(旧産業文化会館壁画碑文より抜粋)

### Ⅲ—3 制作過程

#### 1) 制作計画

30名の参加学生を小グループに分け、原画制作および制作壁面を分担した。グループ構成は絵画力を考慮し、学部3年生主体の1つのグループ、大学院2年生・大学院1年生・学部4年生・2年生・1年生を均等に分けた2つのグループ、松永による1つのグループとした計4つのグループを編成し、学生リーダーを山下浩司とした。各グループは担当箇所の壁面を制作するが、分担壁面部分終了次第、他グループの補佐に回ることにし、制作日程は学生の予定を調整しながら計画することとした。

制作手順は、検討した結果、原画を基に、原画に縦横多数のグリット線を引き、現場壁面にも同じ本数のグリット糸を設置し、グリットを目安に原画を拡大して描く技法を採用した。

#### 2) 日程

平成21年4月22日(水)

熊本市経済振興局商工振興部産業政策課(小畑氏)と協議。内容確認、依頼受諾。

松永、学生達と協議、制作準備日程調整、原画制作開始。現場調査開始。

5月12日(火)

原画完成。熊本市へ送る。

#### 第1回壁画制作 西側壁画制作(3日間)

5月15日(金) 15:00~17:00

現場制作準備。清掃、シャッター・ガラス・板壁面洗浄。

5月16日(土) 9:00~18:00

壁画制作開始。開会式にて、熊本市経済振興局長谷口博通氏、熊本市経済振興局次長兼商工振興部長宮原國臣氏、熊本市経済振興局商工振興部産業政策課課長内田敏郎氏、熊本市経済振興局商工振興部産業政策課主幹兼主査江藤正明氏、他来訪。壁面へビニール養生。シート敷設。壁面グ

リット用糸設置。下描き。午後より着彩。

5月17日(日) 9:00~19:00

着彩。夕刻に完成。

閉会式にて、内田敏郎氏挨拶。

#### 第2回壁画制作 東側壁画制作(3日間)

7月3日(金) 15:00~17:00

現場制作準備。清掃、シャッター・ガラス・板壁面洗浄。

7月4日(土) 9:00~18:00

壁面へビニール養生。シート敷設。壁面グリット用糸設置。下描き。午後より着彩。

7月5日(日) 9:00~19:30

着彩。夜間に完成。閉会式にて、内田敏郎氏挨拶。

#### 第3回壁画制作 シャッター壁画制作(2日間)

8月1日(土) 9:00~17:00

現場制作準備。清掃。シャッター壁面洗浄。壁面へビニール養生。シート敷設。壁面グリット用糸設置。下描き。午後より着彩。

8月2日(日) 9:00~17:00

着彩。12:30、幸山政史熊本市市長来訪。

夕刻、完成。閉会式にて、内田敏郎氏挨拶。

○総壁面の大きさ 縦3.5m×横91.7m

#### ○熊本市旧産業文化会館外周壁画参加学生名

大内絵里奈	高木翔
大塚麻貴子	高洲麻美
小堀絵美	福田葵
香月彩	矢野亜季
村川友梨	山下志穂
荒巻里江	佐々木暁絵
有田美香	柳沙也加
岩本望来	小山明子
中村友麻	西青木琴美
西田真理	池部吏
平川敦子	谷川優子
藤原みなみ	手嶋瞳
浦由有子	松隈知子
内田麻美	中川幸恵
工藤明日香	山下浩司

#### Ⅲ—4 制作後の対応

壁画制作終了後、熊本市役所での感謝状贈呈および、東京国立科学博物館展覧会開催と壁画に関する行事が開催された。また各種、報道がなされた。

平成21年8月27日（木）13：00

熊本市役所5階にて壁画制作感謝状贈呈式。  
感謝状および記念品贈呈，幸山政史熊本市長謝辞  
の後，記念撮影。

平成21年11月28日（土）・29日（日）

壁画制作参加学生29名と松永，開催中の大学サイ  
エンスフェスタ（熊本大学設立60周年記念展覧会）  
に参加。（会期 2009. 11. 20～11. 29）  
熊本大学設立60周年記念展覧会が，静岡大学・京  
都繊維大学と東京上野の国立科学博物館にて3大  
学同時開催され，第2会場において壁画のレプリ  
カと制作の様子が展示された。

平成22年2月4日（木）・5日（金）

2010くまもと産業ビジネスフェア（会場：グラン  
メッセ熊本）にて壁画のレプリカと制作の様子が  
展示された。

#### ○報道記録

- ・平成21年5月17日（日） 毎日新聞社  
熊大生がビルに壁画
- ・平成21年5月18日（月） 熊日新聞社  
十字街
- ・熊本大学広報誌 熊大通信vol33 summer  
特集 まちはボクらのキャンパスだ
- ・熊本県発行メールマガジン：第418号 7月2日  
気になる！くまもと くまもと元気モン！  
「気分はミケランジェロ！絵画の力で街を華やかにした  
い」
- ・平成21年7月5日（日）18：00TV放送 TKU
- ・平成21年7月5日（日）19：30TV放送 RKK
- ・平成21年7月6日（月）18：15TV放送 KKT
- ・平成21年7月5日（日）熊日新聞社  
絵で街中盛り上げよう!!
- ・平成21年7月11日（土）熊日新聞社  
旧熊本市産文会館閉鎖の「寂しさ」吹き飛ばせ  
「熊本」づくし 華やか壁画
- ・平成21年8月2日 コウヤマノート（幸山政史の日記）  
2009年8月2日 政令市イベントに参加して
- ・平成21年8月28日熊日新聞社  
旧熊本市産業文化会館の壁画制作で市が感謝状
- ・熊本大学設立60周年記念特別番組 挑戦！熊本大学  
CHALLENGE 制作 KAB熊本朝日放送

## IV 熊本大学附属病院周産母子センター 壁画について

### IV-1 制作の背景

熊本大学附属病院の改築により周産母子センター  
の改築移転が行われる。平成22年4月に完成し，新  
しい施設での治療活動が開始される。このことに基  
き，新しい施設に壁画を描く旨の依頼があり，工事  
の合間に，3月末までの改築工期と同時進行で壁画  
制作を行うこととした。

### IV-2 ホスピタルアート

病院という特殊な施設への制作を依頼され，周産  
母子センターに相応しい，来院する方々の心を和ま  
せるもの，そして，隣接する小児科に入院する子供  
たちを楽しませるに相応しい壁画制作を計画する。

病院では，不安を抱えて来院する関係者の方々，  
かつ長期入院しているの方々，および，そこで日々働  
く医師や看護師の方々が毎日見ても飽きさせず心の  
疲労を緩和し楽しませ，憩いを与える内容を描く必  
要性がある。制作する側には，場の環境を熟考し描  
くことは前述の通りであるが，市販の壁紙でも単な  
る壁模様でもない，人が描き出す絵画の力が期待さ  
れているところである。

絵には，場に相応しい，何処にもない，この病院，  
この病室のアイデンティティを提供する力がある。  
その責任を負った仕事でもあり，真剣な，慎重な態  
度で，且つ，力みを微塵も感じさせない憩いを演出  
する絵画制作を手掛けることを求められる。

この病院での絵画（ホスピタルアート）は微力な  
がら病院機能の一部を担う大切な役割を永遠に担う  
ことになる責務を負う。

### IV-3 制作過程

#### 1) 制作計画

制作は建設中の病院工事の合間をぬった作業とな  
るので，3月末の限定された短期間での夜間制作  
（18：00～21：00）となる。参加学生は，教育学部美  
術科の学生で，絵画力を考慮し，学部3年生以上を  
対象として期間中に参加可能な学生を募った。制作  
は2面の壁面（GCU待合廊下壁面＝施工名称：廊  
下2，および小児病棟へ渡る廊下壁面＝施工名称：  
廊下5）に分かれるので，2つのグループを編成し，  
学生リーダーを手嶋瞳とした。成員には絵画力に不  
安のない学生を揃えていることもあり，最も強い団  
結力を持つ学年単位で組織し，夜間短期間制作に対  
応・準備した。

- ① GCU廊下壁面＝施工名称：廊下2

(縦1.63m×横4.61m)

・【Aグループ】大学院生4名での制作

② 小児病棟へ渡る廊下壁面＝施工名称：廊下5

(縦1.63m×横8.38m)

・【Bグループ】学部生7名，松永補佐での制作

制作主題は「パラダイス」とし，Aグループ，Bグループとも原画を考え，癒しをあたえるホスピタルアートとして気持ちを一にして制作にあたることを指示した。それを基に，Aグループは海の中での沢山の泡の中に夢の世界を描きこむファンタジックな絵画，Bグループは陸上での100数十匹の動物たちの様々な様子を表す温かい世界を描いた。AグループとBグループの壁画は描く場所は離れているが，水から陸へと途中から絵柄が繋がるように描き，夢にまつわる可愛らしいバクから泡が膨らんで水の中へ入り込む統一感ある2つの壁画とした。

描写画材は病院内壁面であることを考慮し，臭気微弱なアクリル水彩絵具とした。

完成後，作品に碑文を付けることとなり，作品の題名，制作者名および，作品の解説をしている。

この作品を見ることの多い子どもたちにとって読みやすい文面で表記した。

### だいめい 「パラダイス」

いろいろなどうぶつがいます。

なんびきいるのか さがしてみてね。

なにをしているのか かんがえてみてね。

(サイズ 縦1.6メートル 全長13メートル)

ホスピタルアート制作

熊本大学教育学部 松永研究室(松永拓己 准教授)

学生：手嶋 松隈 谷川 池部 工藤 高木 山下

内田 福田 矢野 佐々木

2010年(平成22年) 3月29日完成

## 2) 日程

平成22年1月22日(金) 14:00～15:00

熊本大学附属病院にて打ち合わせ。病院側から三淵医師，岩井医師，美術科から松永参加。現場下見を行う。

3月4日(木) 18:00～20:00

打ち合わせ，および熊本大学附属病院壁画予定現場見学。工事中である西8階の周産母子センター予定区域の視察，および壁画の内容の打ち合わせ。病院側から岩井医師，工事担当事務員，看護師が参加，美術科から松永，制作学生参加。

3月16日(火)

原画完成。病院側に送付。

3月24日(水) 18:00～21:00

入館にあたって，病院感染対策室よりの説明。諸注意(マスク着用，小児病棟のため静粛な作業。靴や服に泥や汚れが無いことの確認。作業現場での飲食禁止，体調不良者の制作禁止)。開始式にて病院側岩井医師よりの挨拶。壁面へビニール養生，シート敷設。下描き開始。

3月26日(金) 18:00～21:00

制作。下塗り。背景部分よりの着彩。

3月27日(土) 18:00～21:00

制作。着彩。虹部分，草木部分等を描く。

3月28日(日) 18:00～21:00

制作。着彩。泡細部描写，動物たちの描き入れ。

3月29日(月) 18:00～21:00

制作。着彩。細部描写。100匹以上の動物たちを描き上げる。完成。全体写真撮影。病院側岩井医師よりの完成式の挨拶。

## V まとめ

共同作業による絵画制作の2つの実践を挙げたが，今回の壁画制作は多くの人の協力により多くの困難を乗り越え，成し遂げることができたものである。制作においては共同作業にての絵画制作を求められ，渉外，制作準備と原画作り，現場での苦労等の大変な制作労力に堪え，良き団結で力を発揮した学生諸君，および，支援をしていただいた多くの方々による力が不可欠であった。それらの結集した力によって完成をみた作品である。

特殊なガラス絵技法や，金属凹凸面への描写，ホスピタルアートと，制作した学生にとっては未経験な制作で高い技術を要求され，さらに共同制作という，制約の多い制作形態の中で，高度な水準の作品を希求されて結果を求められた。そして，新しい技術力の消化とともに，共同作業の組織立った動きにより成し遂げるといふ2つの課題をよくこなし良作を仕上げる事が出来た。その後，さらに学生達は，これらの壁画制作終了後も，他壁画の依頼を受け，自主的に制作を行っている。

壁に絵を描くことに対して不安を持たれる場合がある。永続的に目に映る壁画であるので無理もない

ことであり、理解できる。完成するまでは、果たして期待に即する良作が誕生するのか未知である。

制作者が、絵を描く行為を真摯に捉え描くことは、自己にも周囲に対しても必要なことである。社会には稚拙で独善的な落書き等壁画とはいえない壁の絵や文字が描かれていることは嘆かわしいことである。人心の荒廃であり、都市の荒廃につながるような非社会的行為は教育的面からも否定的に捉え、本当に良いものを見せ、感動で壁画の在り方を再認識していただけることをも考え、これからもこのような取り組みは続けて行きたいところである。今回の壁画制作は期待される目的を達成し、熊本の中心街に絵の力で賑わいを齎し、病院に憩いを齎したことは意義あるものであったと思う。

これから始まる改築された附属病院周産母子センターの新しい活動と私どもの絵画が末永く共に生き、生まれてくる生命に子どもたちに力を与えてくれることを制作者として願う限りである。

そして、永い間、熊本の産業と文化の象徴的建物であった産業文化会館の最後は一抹の寂しさを感じさせるが、我々が描いた熊本の風物や自然、歴史に纏わる絵画は産業文化会館を廃墟とせず、最後の輝きを齎す有意義な建物へと変身させたいと思う。長年佇み、熊本を支えた本会館に熊本の思い出を、若いこれからの未来を背負う学生達が熊本を描いたことを産業文化会館に贈り、更なる熊本の発展を願いたい。

## 謝 辞

本活動にご協力下さいました熊本市役所産業政策課長内田氏、課長補佐小畑氏をはじめ産業政策課の皆様、および経済振興局局長谷口氏をはじめ同役所の職員の皆様、制作に参加いただいた幸山政史熊本市長、熊本大学研究国際部社会連携課の皆様、教育学部永田事務長をはじめ事務部の皆様、事務改革総主幹柳瀬寿さん、熊本大学医学部の三淵教授、岩井医師および看護師の皆様、教育学部関係教員の皆様、学生を最後まで支援いただいた谷口功熊本大学学長、他、関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 注

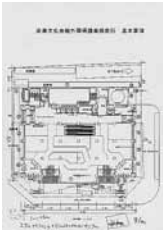
- 1) Jose de la Cruz Porfirio Diaz Mori (1830~1915)  
レルド前メキシコ大統領放逐の後、自ら大統領となる。長期政権下、メキシコは外国資本に支配され、農民は債務の隷属状態に、労働者は劣悪な環境におかれ社会的不平等に陥りメキシコ革命(1910. 11. 20)が勃発する。メキシコ革命はカルディナス政権終了(1940)にて終結とされる。  
参考文献)アマリア・ロペス・レイエス ホセ・マヌエル・ロサルフェンテス、『全訳 世界の歴史教科書シリーズ26 メキシコ』、帝国書院、1982、P307-P331
- 2) 壁画運動をさす。メキシコ革命後の新時代に相応しい美術を創造し革命の意義を壁画に描き、革命後の社会に相応しい新しい絵画制作の方法の探究、インディオ達のもつ伝統的な美的感性の再評価等新生メキシコの精神と風土を表現した、民族主義、社会主義的な美術運動。
- 3) David Alfaro Siqueiros (1896~1974) メキシコの画家
- 4) Diego Rivera (1886~1957) メキシコの画家
- 5) Jose Clemente Orozco (1883~1949) メキシコの画家
- 6) tableau【仏】 ラテン語で板を意味するタブラ(tabula)に由来する言葉で、テンペラや油彩で描かれた板絵のこと。キャンバスに描かれたものも含む。今日では完全に仕上げられた独立した(壁画と異なる)作品を意味する。
- 7) 横出正紀・内田裕子 2006 個性を生かした共同制作の方法についてー工作的絵画をてがかりにしてー 熊本大学教育実践研究 23, p138-139
- 8) 森安達也 『ガラスの聖像画』、恒文社、1977、p5-p10
- 9) 小出楯重(1887~1934)日本の洋画家。二科会。
- 10) 小出楯重 『小出楯重随筆集』、岩波書店、2009、p15

## 主要参考文献

- ・山脇一夫「メキシコ壁画運動 オロスコ、リベラ、シケイロスを中心に」vol26-345-368『世界美術全集26』、小学館、2000
- ・デビット・バイパー『世界美術百科I』、第一法規、1985

壁画制作映像記録

○熊本市旧産業文化会館外周壁画



1) 産業文化会館図面



2) 壁画原画



3) 制作現場表札



4) 開会式



5) 第1回壁画 下絵描き



6) 第1回壁画 ガラス壁面内側



7) 第1回壁画 夏目漱石，山茶花他



8) 第1回壁画 新幹線，柁他



9) 第1回壁画 熊本城南面



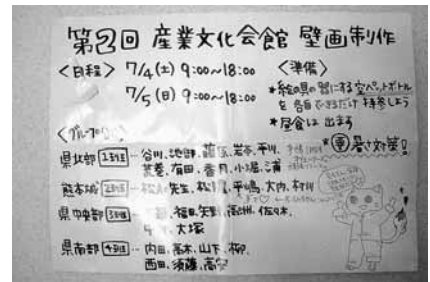
10) 第1回壁画 加藤清正 菊 芍薬他



11) 第1回壁画 宮本武蔵 菖蒲 朝顔他



12) 第1回壁画 完成



13) 第2回壁画 制作計画現場揭示表



14) 第2回壁画 ハイヤ節 S L 他



15) 第2回壁画 例大祭 通潤橋他



16) 第2回壁画 燈籠祭 菊池溪谷他





17) 第2回壁画 遊園地 孔子廟他



18) 第2回壁画 熊本城本丸御殿東面



19) 第2回壁画 阿蘇草千里他



20) 第2回壁画 完成



21) 第3回壁画 火の国祭 演舞制作



22) 第3回壁画 火の国祭 演舞



23) 第3回壁画 火の国祭 演舞制作



24) 第3回壁画 火の国祭 演舞



25) 第3回壁画 火の国祭 演舞



26) 第3回壁画 幸山市長来訪



27) 熊本市役所 壁画制作感謝状贈呈式



28) 熊本市旧産業文化会館



29) 東京上野 国立科学博物館  
大学サイエンスフェスタ参加



30) 同会場



31) 2010くまもと産業ビジネスフェア

○熊本大学附属病院周産母子センター壁画



32) 小児病棟への廊下5工事壁面



33) GCU廊下2工事壁面



34) GCU廊下2養生



35) 壁面下描き



36) 壁面着彩開始



37) 壁面 空部分描写



38) 壁面 動物描写1



39) 壁面 樹木描写



40) 壁面 動物描写2



41) 壁面 動物描写3



42) 壁面 水中部分描写



43) 壁面 虹 魚描写



44) 壁面 泡描写



45) 壁画 陸上部分1



46) 壁画 陸上部分2



47) 壁画完成